

# 令和 3 年度事業報告書 – 地域密着型みくに湊・短期入所生活介護 –

テーマ：自然災害や感染症対策により、入所者・利用者の安心・安全な望む暮らしの支援と  
地域住民と支え合う仕組みづくりを目指す

サブテーマ：なじみのある場所で、自立支援を目指した生活が継続できるよう支援する

## 1. 利用者の権利と安全を最優先とした介護を提供する（入所）

- ① 1月に職員1名コロナ陽性発生となったが、利用者まで拡大することなく、保健所指導による感染対応や業務のスリム化を徹底することで、無事12日間で収束に繋がった。その後マニュアル化することで、BCP計画の作成に繋げることができた。
- ② 「虐待芽摘みチェック表」を月1回記入、所属長と確認し振り返ることで、自分のケアを振り返ることができ、不適切ケアの防止が図れた。また、安全対策担当者を配置することにより、事故防止委員会では中心となって会議や勉強会を行い、事故防止に努めた。
- ③ 実習生やボランティアの受け入れはなかったが、職員の異動に伴い緊急時訓練を実施することで、利用者の急変時の対応の再確認を行うことができた。
- ④ LIFEを導入、活用することにより、褥瘡予防や機能訓練の維持に繋がっていった。特に口腔指導では、歯科医師から直接介護職へ指導を受けることにより、職員の口腔ケア技能の向上に繋がり、誤嚥防止に努めることができた。

## 2. 住み慣れた地域で、在宅での生活が継続できるよう支えていく（短期）

- ① 利用者の変化時にはすぐにケアマネや家族に連絡、状態を伝達することで早期受診に繋がり、急変時の対応、連携は図れていた。
- ② チーム会議にて利用者の状況等を話し合い、機能が維持できるよう、より良いケアに繋げるため対応方法を見直し、他職種で検討していった。今後は利用者の稼働率を上げるように繋げていきたい。

### 3. 魅力ある職場を作り、職員のモチベーションを高める

- ① 外部研修では WEB にて東海北陸ブロック、認知症初任者研修を職員が受講し、介護の質の向上に繋がった。内部研修では、WEB 対応の他に施設内での勉強会を開催することで、受講率が少しずつ増加している。
- ② チームの責任者、所属長、職員との面談を行い、悩みや思いを傾聴し、環境や業務の改善に繋がった。今後も継続しモチベーションを高めていきたい。
- ③ コロナ禍の影響で、職員の家族が濃厚接触者になり、急な休みが重なったが、技能実習生を受け入れ、日々の指導力と本人達の頑張りで、技能実習生も十分に戦力になり、また協力体制の確保で業務が滞ることはなかった。チーム力の向上に繋がっている。